

エネルギー政策に関する意見箱

1. 氏名	齋藤 健彌
2. 年齢	
3. 性別	
4. 連絡先	
5. 御意見及び その理由	<p>太陽光、風力による再エネ発電は、これ以上増設してならないと思う。また、ベースロード電源として、安全性を強化した原発の稼働と、バックエンドを含めた原子力全体の推進政策が、再構築されることを希望する。</p> <p>(理由)</p> <p>電気は、欲しい人に、欲しい時に、欲しい量を、品質を保って、適正な価格で供給されることが基本でなければならない。</p> <p>ところが、お天気まかせの太陽光、風力発電は、蓄電池なしでは、電気の基本条件を満たすことができない全くの欠陥電源である。東電福島事故後、当時の政府がドイツに見習い固定価格買取制度を採用し、普及を図ろうと試みたが、電気代が高騰するのみで、いいところはない。</p> <p>ドイツでは、再エネだけでピーク時の電力需要の1.2倍にまで普及したが、CO2の削減はほとんどできず、家庭用電力代は高騰を続けている。また電力会社は、再エネを優先的に市場に入れることが義務づけられているため、火力発電所は出力を落とさなくてはならない。そのため、経営状態は最悪の状況である。それでも何とか生き残っている理由は、下記の3つであろう。</p> <ul style="list-style-type: none">① 欧州は電力網が張り巡らされており、他国と電力のやり取りができること。② 欧州は、エネルギー輸送のパイプラインが充実しており、石油、ガスの輸送が容易であること。③ ドイツは、自前のエネルギー資源である石炭を豊富に持っていること。 <p>一方、我が国は、これら3点が全て無いことを、強く認識すべきである。このまま再エネを推進すれば、すぐにドイツ以上の苦境が訪れることは明白であり、我が国は経済的に破たんするであろう。エネルギー安全保障の点から、地球温暖化防止のため、安全性を強化した原発の稼働と、バックエンドの推進政策を再構築すべきである。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>